

江源茂禮

四上

丁未  
128  
上(4)

210  
72  
Vol 4



部	107
番号	125
書名	彦根中學校圖書部蔵

寄附

贈	寄
明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名	
大正	七年
	六月
	八日

江源武鑑卷第四上

清天文十四年

江源武鑑  
卷第四上  
清天文十四年

朔日ヨリ五日一テ御作法例年ノコトシ

十五日御旗ノ祝アリ當年ヨリ進藤山城守

秀盛御旗ノ禮ヲ御國ノ間ノ淋ニ飾ル

今午剋屋形并箕作ノ定頼八幡山ノ義昌江

州四十六人ノ旗頭衆當國八幡宮社參

十六日佐々木社御社參



九日屋形并御一門上洛屋形在京ノウ千後藤  
但馬守蒲生忠兵衛尉氏高觀音城ニ在番

今月二月

十三日畠山修理大夫義忠江東ニ來リ竹生  
嶋(ニ)ウテ觀音城へ登山ス

十八日天下菴瘡ハヤル貴賤死ス依之將軍  
ヨリ國々ノ守護へ仰付テ大般若經ヲ可唱

言ノヨシナリ江州ニテ江西ハ山門安樂院江  
東ニテハ常樂寺江北ニテハ大福寺江南ニ

テハ石山寺右四箇寺ニテ唱讀ス

北日右經中ノ僧米トシテ一寺一十石ツ、ノ

僧米ヲ被仰付屋形今日一寺ニ經中ノ奉行

等二人ツ、仰付ラル北ハ浅井下野守西ハ和

田兵部少輔南ハ山岡河丹守東ハ後藤但馬

守ヲ分千ツカハシ玉フ

三月

四日將軍ノ若君後号義輝公菴瘡ノ義ニヨツ

テ迎國ノ大名上洛屋形モ今日上洛



五日將軍家御二男後号義暉公同瘡瘡

十九日屋形井御一門江東二歸城

廿四日坂本ヨリ言上ス山門南泉坊ノ法印

ヲ京家ノ若者共殺害シ同宿ノ出家九人同

ク殺害ス所ノ門徒彼惡徒ヲ召捕メ早ク檢

使ヲ給ツテ惡徒ノ意旨ヲ糾サレ將軍家ニ

ウツタヘ玉フヘキノヨシヲ告來ル

四月

五日土岐範頼ヨリ使節アリ家人共齋藤山

城守ト心ヲ合テ濃州大桑城ヲ責ヘキヨシニ

定テ去月廿日ヨリ國內ニツニ分レテ既ニ

合戰ニ及ヘキナリ加勢ヲ給ルヘキトナリ

元來齋藤ハ土岐家ノトリタテノ者ナリ屋

形ノ云ク土岐自國家人ニ敵對ノ思ヲナス

土岐力制法年來不正故ト仰テ加勢ノ事ハ

箕作義賢ヘ仰付ラル

廿日大鬷フル田畠ノ苗鳥獸ウタレ死ス鬷

ノ大キ廿如大粟



廿五日申刻大地震裊禁裏將軍ノ御所殿門多  
破倒ス江州觀音城後ノ石垣三百八十間崩

五月

五日佐々木御社祭礼屋形御一門社參例年  
ニ替テ騎馬ノ衆一郡ニテ廿騎ツ、當年ヨリ  
増出ス

十日將軍家ノ三男竹王丸殿三歳逝去依之  
屋形上洛

十五日地震午刻

十七日大風雷鳴動觀音城西ノ櫓クツル

廿五日白髮ノ社鳴動ス依之彼社家權少輔  
ガ方ヨリ觀音城へ言上ス

六月

四日勢多橋ヲ造ル奉行植村丹後守實頼

十二日赤松一徳齊率人ニテ江州ニ來ル屋

形於高嶋郡中高ノ庄ヲ扶助シ玉フ

廿四日三井寺勸學院尊父法印雷ノ夕ヌニ

化ス



北八日志賀郡堅田淨見堂造營彼堂ノ千躰  
佛ハ惠心僧都ノ作ナリシカ元弘ノ兵乱ニ  
一佛千躰ノ内三百五十二佛紛失ス今其闕  
佛ヲ作り増シ玉フ屋形大佛師貞長ヲ召下  
シ作之玉フ

七月

十日觀音城ノ大手石垣ヲ築ク御一門并旗  
頭衆間ヲ刻リ石ヲ寄ス惣奉行澤田兵部少  
輔忠俊

十五日屋形堅田淨見堂ニ至ル

廿一日野湏幸津河新河大明神造營

廿二日ヨリ先考雲光寺殿ノ御帛アリ氏綱

公ノ御事ナリ當年二十八歳ニ當ル正キ日

ハ當月九日ナリ屋形上洛ニ依テナリ

廿五日惠心院ノ僧正化ス屋形ノ族ナリヨツ

テ今日屋形山門ニ登ル

八月

朔日京都ヨリ上使上野晴永江東ニ來ル諸



國郡境ヲ改メ繪圖ヲ以テ當年中ニ照覽ニ  
可獻ノヨシ江州ニテハ江西江南江東江北  
ノ旗頭へ屋形仰付ラル

十日江北駒井志摩守實政卒ス彼息十キニ  
依テ高木義清ノ二男ヲ駒井カ名字代ニスへ  
ラシ駒井ノ城ヲ給ル十八年  
十五日屋形拾遺集ヲ讀セ玉フニ定家郷ノ  
哥ニ

夢カトモ里ノ名ノミヤ残ルラン

雪モアトナキ小野ノ浅蒨生

此哥ハ比叡山ノフモト惟高親王ノ舊跡ヲ  
ヨメリトアルヲ見玉ヒテ志賀郡ノ旗頭和  
田中勢大夫貞綱ヲ召シテカヤウノ舊跡ア  
ルカト尋玉ハ山門横川ノ下ニ小村アリ則  
小野ト云此所ニ惟高親王ヲ小野ノ明神ト  
アカメ有之ヨシ申上ル屋形不知シテユソ  
トテ彼宮ヲ造營シ玉フカ一首ヲ詠シテ宮  
納シ玉フ



イザサラハフリニシアトヲ改メテ

後ノ形見ニ小野ノ神カキ

委細ニコトカキラシ彼宮ヲ建立シ玉フ

シテ屋形ハ舊跡トタニ聞召セハ其所ヲシ

タヒ舊例ヲ糾シ玉フ

九月

三日細川修理大夫晴元ヨリ使節アリ是ハ

竹生嶋參詣ノ案内ナリ屋形ヨリ軍船三艘

ヲ遣ス

十日進藤伊賀守藤原貞方卒ス七十三

十五日屋形岩倉山ニテ猪ヲ狩リ給山毎ニ

岩穴多クアルヲ見テ道珠菴羅門子ト云唐人

ヲ召シテ大唐ニモカヤウノ事アリヤト仰

玉フ羅門子古記ニモナシト申屋形日本六

カヤウ事多シトノ玉フテ其後記禄所ノ面

面ヲ召シテ彼穴ノ事ヲ問玉フニ植村入道

覺一軒申上ルハ舊記ニノセテ候ハ武烈天

皇二年ノ衆記ニ天ヨリ火雨ヲフラスト云



依之國々石室ヲ作ル是ハ武烈天皇惡王ニ  
テ民ヲ害スル事古今ニタメシナシ依之如此  
其後三十四代推古天皇九年辛酉五月十三  
日午刻實ニ火雨フリ河水ノ上ニテ蒲ル  
ト古記ニアルヨシヲ言上ス屋形此入道八丈  
學ノ者トテ長村ノ里ヲ給ル事アリヤ  
廿五日屋形志賀郡衣川ノ天神ニ參王ヲ  
廿八日大洪水同晦日ニ至ル江州ノ湖八合  
ニ蒲ツ

十月

四日粟本ノ天王ヲ造營奉行山田左衛門尉  
秀資屋形今日野寺ノ城へ移王ヲ  
十四日野瀨郡津田ノ庄ニテ今年ヨリ茶ヲ  
作スヘキヨシヲ仰出サル、田中主馬助忠秀  
奉行ス江州一國ノ茶ノ實ヲ集ム是ヨリ江  
州國用ノ一トナル

廿一日志賀山城守賴資力方ヨリ白石ノ硯  
一面ヲ屋形ニ獻ス此硯ハ木工頭道風力硯



ナリトイフ年号由來ヲ彫付タリ屋形甚自  
愛シ玉フ

十一月

九日光物伊吹山ヨリ比良山ノ西ノ峯ニトブ  
十三日香津ヨリ四尺三寸ノ長太刀ヲ觀音  
城へ上ル彼浦ニテ引上ルヨシナリ太刀ノ  
銘ニ曰ク柏原彌三郎爲永所持之治兼四年  
卜書付ケリ屋形此太刀ヲ則柏原美作守時  
長ニ下シ玉フ時長カ家ノ寶ハ是ナリ

九日將軍ノ御嫡男義輝公江東ニ移リ玉フ  
觀音城ニ七日御滞留ノ内多賀明神ニ社參  
シ玉フ義輝公今年十歳ニテ御坐ケルガ多  
賀ニテ天下安全ニ守リ玉フヘキ神ナラハ  
都へヨヒ參ラセントノ玉フユソ上下工三  
ヲフクミ又  
九日三井ノ大光院堯尊觀音城ニ登山シ  
テ真言ノ秘法ヲ説玉フ

十二月



六日伊吹山ヨリ一頭三足ノ麻ヲ觀音城へ  
獻ス屋形黒田市正清忠ヲ以テ將軍家ニ進  
出玉ノ三井ノ大水洞裏に歸有餘ニ登山  
十五日佐保城代目加多備中守貞房卒ス行  
年五十一貞房子ナキニ依テ進藤山城守カ  
三男孫三郎ヲ彼猶子トシ名字相續レ玉ノハ  
...

天文十五年丙午年

正月

朔日大雪降二日酉ノ刻ニテ不止三尺五寸  
三日大雨  
五日ニテ旗頭ノ面々觀音城出任ノ次第山  
ニテノ御作法例年ノコトニ不及記焉  
十一日地震午刻公方御所東ノ櫓破倒ス  
十五日屋形江州八幡宮へ社參午刻七手組  
ノ衆供奉ス箕作ノ定頼八幡山ノ義昌同刻



二彼御社ニ社參同日未刻京極壹岐守高峯  
永原種村ノ御一門社參

十六日佐々木ノ宮社參昨日御方々ナリ

十七日勢州ノ梅戸殿依病氣屋敷ノ伊庭高伯父ナリ

資為御使節今日勢州へ向フ

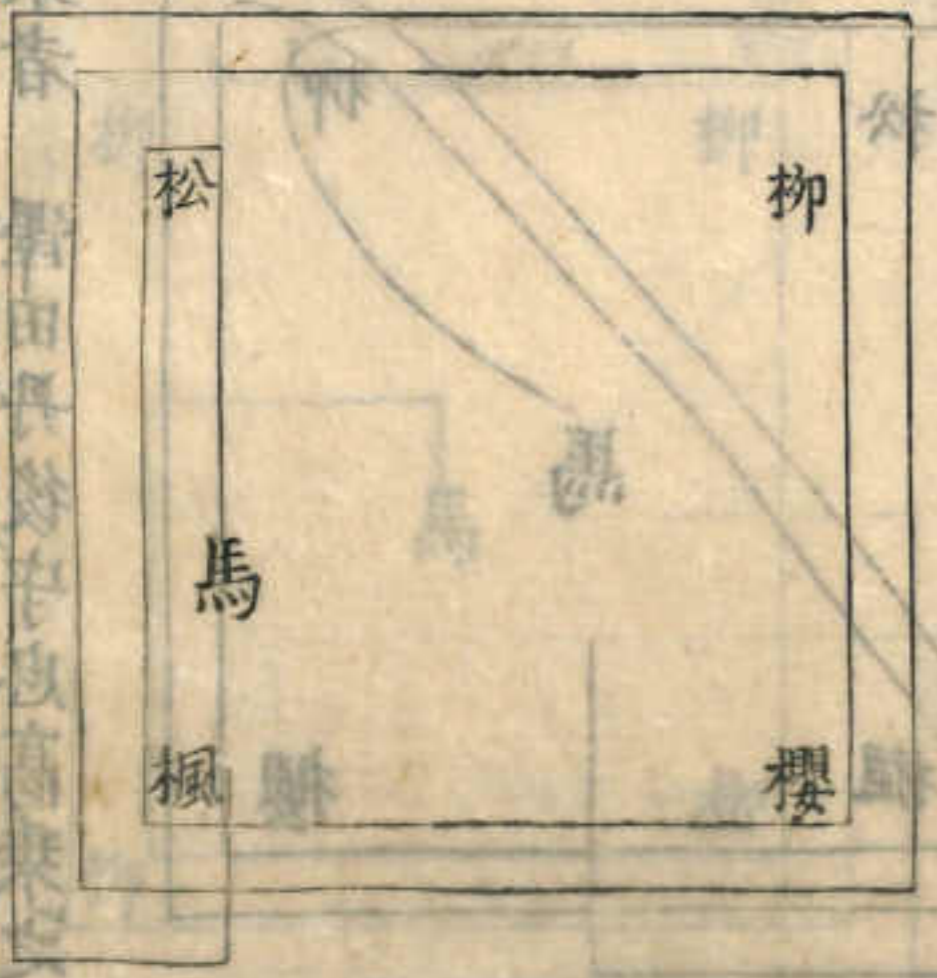
廿五日屋形箕作ノ定頼ノ館へ移リ玉フ義

賢大悦シ玉フテ靛陽ノ馬場始トシテ名馬

五匹ヲ以テ内ノ馬場ニテ責馬アリ

天文十正

○四本懸者 平井宋女正高未乗之

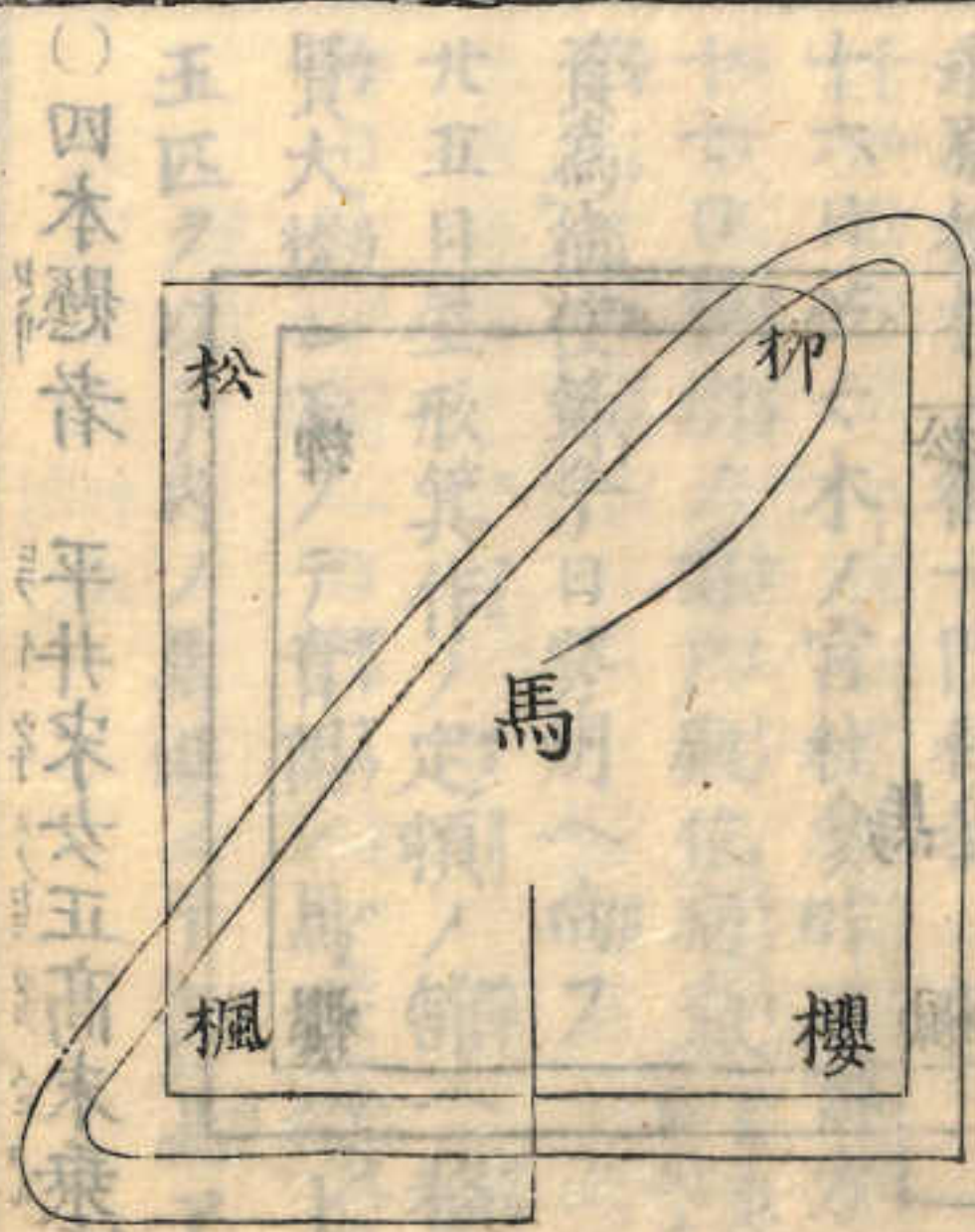


○藤乘



○祝乘者イハヒノリ

澤田丹後守忠高乘之サカタニノミヤノモリタカノリ

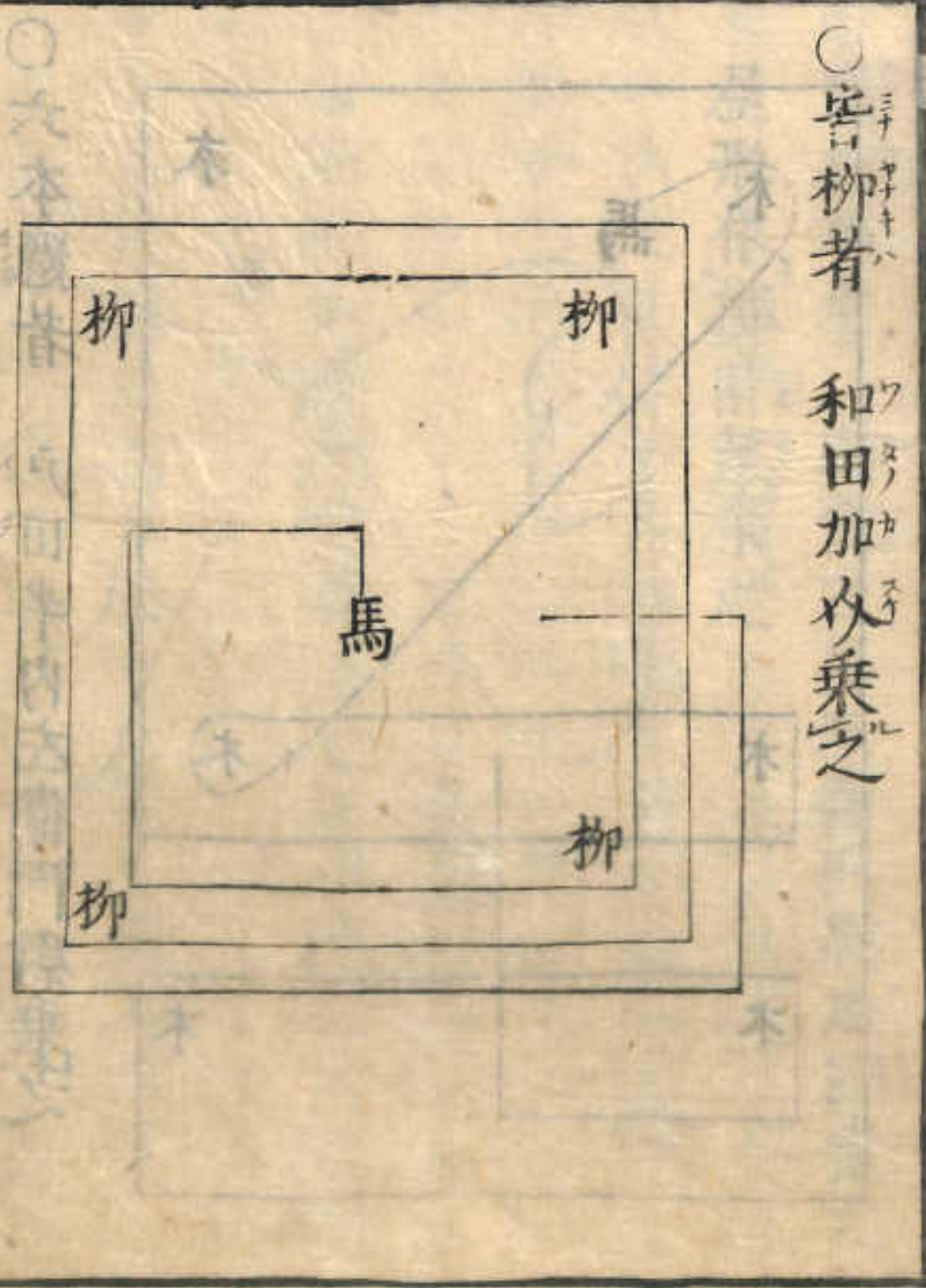


○四本櫻條

平井宋女五郎乘之ヘイライノムネノイハヒノリ

○害柳者イハシキヤナギ

和田加久乘之ワタノカサネノリ

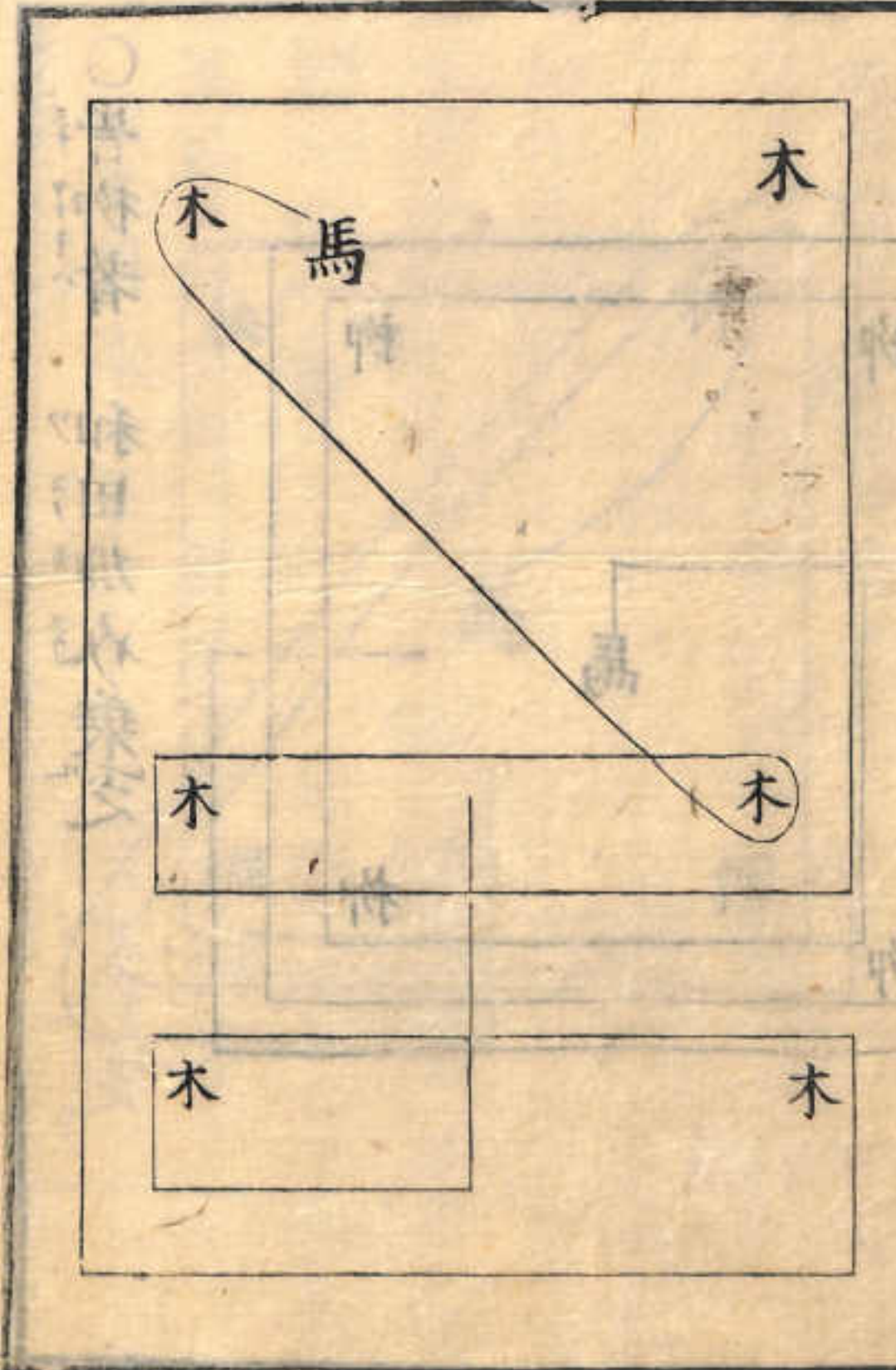


○六本櫻條

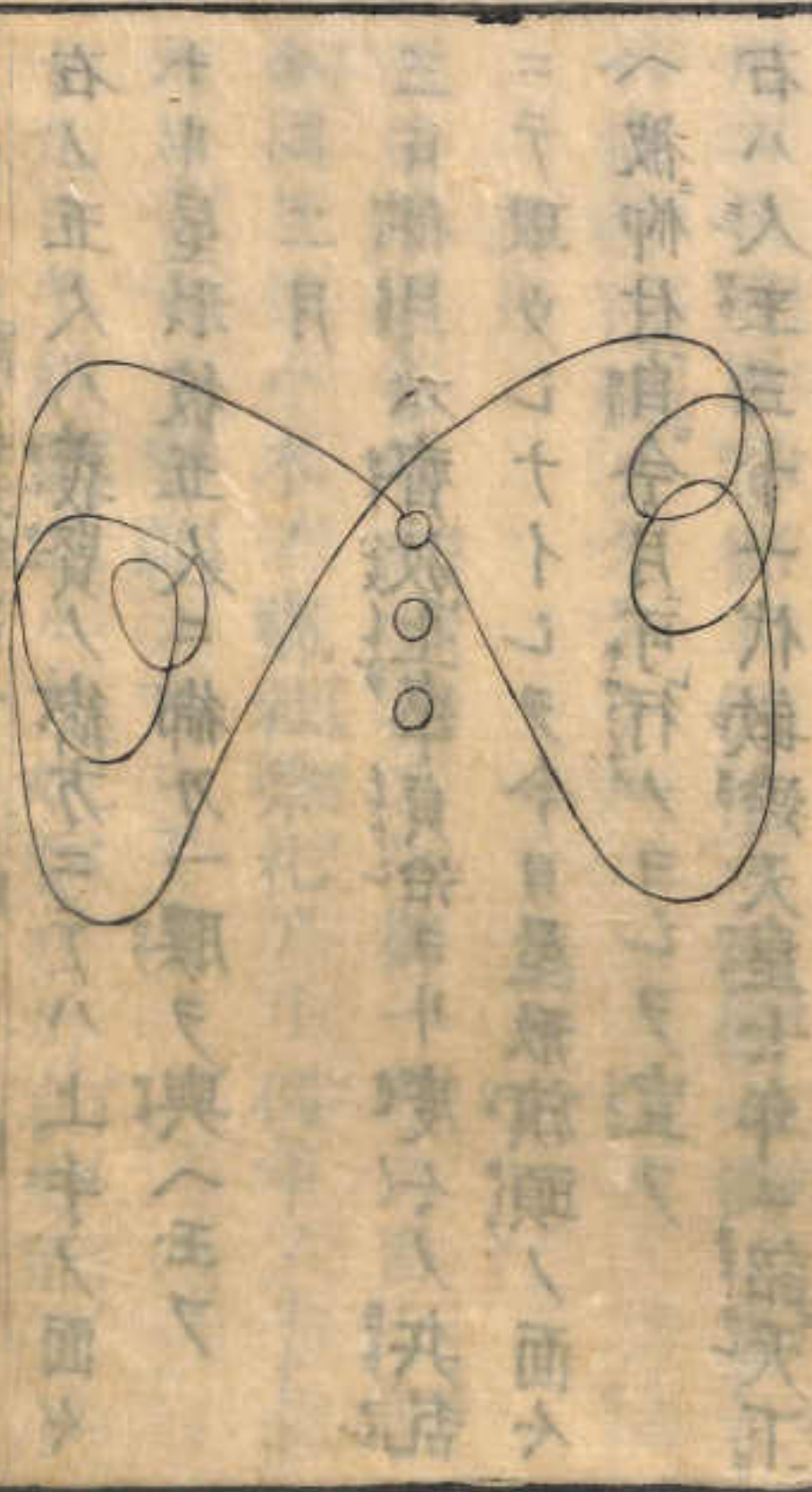
平井宋女五郎乘之ヘイライノムネノイハヒノリ



○六本懸者 戸田半内左衛門尉乘之



○羈重羽者 志賀左内左衛門尉忠國乘之  
 屋形依御前望乘之





右ノ五人ハ義賢ノ御方ニテハ上手ノ面々  
ナリ屋形彼五人ニ御刀一腰ヲ與ヘ玉フ

二月

三日毎月六齋放生事貞治ヨリ度々ノ兵乱  
ニテ取ウレナイシヲ今日屋形旗頭ノ面々  
へ被仰付自今月可行ノヨシヲ宣フ

右八人王三十一代敏達天皇七年ニ詔天下  
玉ヲ取リ始ルヲ乘シナリ委ハ古記ニアリ  
不及記

十五日於江州威徳院如來涅槃會ヲ行ヒ玉フ  
奉行浅井下野守祐政ナリ  
尤二日將軍家郷不例依之五畿七道ノ靈社  
へ御祈禱使ヲタテラル

三月

三日於觀音城曲水宴アリ御一門ノ面々會  
合同日佐々木ノ御社祭礼アリ例年ノコト  
六日青白ノ雲乾ノ方ニアリ  
十九日午刻電下ル大如栗江州在々所々小



鳥甚ウタレ死ス近代ニナシ

廿五日志賀郡建福寺大破ニヲヨフ依之今

日觀音城へ自進藤右近大夫方言上ス屋形

造營アルへキノヨシヲ進藤方へ仰下ス

四月

朔日將軍家上賀茂ニ社參當年在京ノ大名

不殘供奉ス善ツクシ美ヲツクス

九日江州坂本兩社大明神ノ宮震動ス此旨

四至内方ヨリ觀音城へ告來ル

十三日今日中ノ申日ニ當ル依之日吉ノ祭

礼アリ屋形ヨリ今村掃部頭高名ヲ御代參

二被遣處ニ神輿ノ駕與下口論ニヲヨヒ今

村カ家人大キニ働キ神人三十一人手負依

之山門ヨリ屋形へ告來ル意旨ハ今村ヲ山

門へ申請之ト云屋形同意ナシ今村ヲ尾州

斯波ノ方へ落ヤリ玉フ山門大キニ怒テ將

軍家ニウツタウ將軍家ハ屋形ノ舅ナリ仍

テ山門ノ申分ヲ聞召入玉ハス皇家へウツ



タフ皇家ヲト口へ武ノ御政務ナレハ山門  
昔日ヲシタヒ又  
尤九日關東へツカハシ玉フ使節今日江州  
ニカへル屋形ニ言上スルノ條々今廿四日  
鎌倉持氏五代ノ孫古河晴氏官領上杖憲政  
ト一味シテ武州河越ノ城ニシテ小田原北  
条氏康ト合戦シテ晴氏并上杖敗北スルノ  
ヨシヲ言上ス此北条ハ鎌倉北条ニテハナシ  
元祖伊勢新十郎ト云人關東ニ下住シ正シク

ハ氏茂ト云ヨリ北条ノ家ヲヨコシ又今ノ  
氏康ハ新九郎ニハ五代ノ子孫ナリ委ハ勢  
州ノ國司家ノ日記ニアリ

五月

五日佐々木ノ御社祭礼アリ例年ヨリ美ヲ  
ツクス今日神前ノ馬場殿ニテ揃馬アリ屋  
形并箕作殿八幡山御一門旗頭不殘社參  
十三日伊吹山ヨリ一躰二頭ノ白狐ヲ觀音  
城へ献ス前代未聞ナリ將軍家へ献シ玉フ



後皇家ニ入又未聞ナリ將軍家ハ城ノ内  
十五日甲州武田ヨリ使節アリ小原十郎左  
衛門ト云者ナリ屋形御對面甲州ヨリノ内  
意不知仍テ不記

十七日田中坊金全坊兩人及喧嘩田中坊當  
坐ニ死ス金全房ハ山門ニ入ルノヨシ西養  
坊カ方ヨリ觀音城ヘ言上ス彼者トモハ山  
徒侍尤八人ノ内ナリ  
廿日山中磯貝カ方ヨリ高田丸ト云太刀ヲ

屋形ニ献ス此太刀ハ赤松滿祐代々相傳ノ  
太刀ナリシヲ近年彼苗裔流人ニナリシニ  
此太刀磯貝ニ與ヘシトナリ  
廿一日大原家ノ二男竹若丸頓死ス是人屋  
形ノ族ナリ  
廿四日自將軍家畠山修理大夫義忠ヲ以テ  
愛宕山ヘ御代參畠山洛下シテ將軍ノ御館  
ニ向フニ下松ノ邊ニテ一女忽然ト出合畠  
山カ乘馬ノ轡ヲ取ト見ルヨリ乘馬忽ニ死



ス畠山馬ヨリ落ツ家人周章スルニ彼女一  
笑シテ消失ス夕、天狗ノ所作ナリト世以  
テ語傳フ不思義ナリ

六月

七日於江州威徳院佐々木十五代ノ嫡領雪  
江崇永公ノ御弔アリ當年ニ至テ百六十余  
年ナリ何ノユヘニ依テ今如此ソ管領ノ御心  
根不知

十四日祇園會ヲ將軍家見物ス大名小名四

條町屋ニ棧敷ヲカニ見物ス

十九日今上皇御惱依之伊勢へ奉幣使ヲ夕

テ玉ヲ今日江州勾宿ニ勅使三條中納言來

著

十九日屋形旗頭ノ面々ヲ觀音城ニアツメテ

管領ノ國々へ雙六ノ勝負ヲ制禁スヘキヨシ

ヲ仰下ス

右ハ將軍家ヨリ其國主くへ仰下ノヨシナリ

十月七月



廿九日屋形長命寺ニ遊ブ甚雨依之觀音院ニ  
入テ十一月ニ山頭ニ登リ御當家九代ノ祖  
秀義ノ廟ニ參玉フテ其口ニ命ケテ  
廿九日大洪水箕浦惣田輪ノ堀破倒ス  
廿三十一日西衣ニ黄雲立テ世界ノ草木黃  
三日江州衣川ノ天神鳴動ノヨリ全角坊カ  
許ヨリ觀音城ヘ言上ス  
十五日關東ヘ二ワリ公御使節三光坊主膳

正今日江州ニカヘリ觀音城ヘ登城ス屋形  
ニ言上ス品々ノ中ニ今月三日甲州ノ武田  
信虎信州上田原ニヲイテ戰フ敵五千余ニ  
武田二千ヲ以テ利ヲウルノヨリナリ

十二月

十三日野村新五郎ヲ箕作ノ義賢自誅ス意  
能ク事ニレス  
廿日自將軍家上野左近大夫晴久ヲモツテ  
江州竹生嶋ヘ被遣今日爲彼屋形戸田角内



左衛門ヲ竹生嶋へ遣ハ玉フ是ハ坊中爭論  
ノ義ニ依テ十歩注理成或大決断又  
廿四日屋形八幡山ノ義昌ノ館ニ入屋形ノ  
新ナリ  
十九日  
洗田  
宗徳  
評言  
丑今日

六天文十六年丁未 穀年丁未

正月 淋 淋 淋 淋 淋

三日 屋形 病氣ニ依テ 旗頭等礼ナシ

十五日 元朔ヨリ 諸礼ナキニ依テ 今日 旗頭

以面々ノ礼 請玉フ

十八日 大雨後ニ雪ニナリ 明ル十九日 午刻

止ハ三尺七八寸 木上ツモル 近代江州ニ

テナキ 大雨大雪ナリ

廿四日 屋形上洛 翌日 御一門上洛 高嶋ノ清



頼ノ方ヨリ觀音城へ一致論上云軍書ヲ  
獻ス

廿九日屋形并御一門江州ニカへル

十八二月

四日大地震山門横川ノ中堂破倒ス此外洛

外ノ寺社トモ破倒ス

五日將軍家ノ新御所普請成就是ニヨリ今

日義輝公御移徒午刻

六日屋形土洛此外國々ノ大名上洛是ハ來ル

十七日ニ將軍家ノ御嫡領義輝公任將軍ノ

御事ニ付テナリ

七日江州石山寺住僧覺圓法印天狗ノ夕メ

未死ス

十七日辰刻將軍義晴公ノ男義輝公任征夷

將軍

十八日大名小名太刀馬ヲ以テ献ス分限ニ

應シテ定メテリ屋形ヨリ國次太刀号近江  
万歳太刀ナリ屋形代々ノ重寶ナリ一足ト



云馬白馬ニテ長八寸ノ馬ナリ今度屋形補  
任近江宰相從三位北陸道ノ賜管領職寔當  
家肩書片云亦各太極旗又テ旗ノ次期ニ

兼運二月

四日江州大津ノ町空ヨリ小石ヲ落ス前代  
未聞ナリ

廿三日越前ノ朝倉彈正忠ヨリ使節アリ彼  
國ノ萩原色々廿箱屋形へ送ル廿箱ノ内三  
箱ノ内ニ黄金ヲ籠入ラル屋形旗頭ノ面々ニ

是ヲ給ル朝倉ノ心行イカ、不知ト人々申合フ

十一月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月 三月

三月 佐々木御社祭礼屋形并定頼同義賢八  
幡山ノ義昌此外御一門不殘社參今日屋形  
御曹司龍丸殿元服五歳ナリ佐々木ノ寶前  
ニテ旗頭ノ面々思々ニ太刀一腰ヲ進献ス  
廿一日ノ夜ノ月四方筋ノコトクノ光アリ  
後兩方ニ長一丈計ノ筋出曉ニヲヨフ  
二月 四月 八月 二月 三月 三月 三月 三月 三月 三月



二日ヨリ八日ニ至テ雨フリ江州ノ水八合  
ニ成ル浦々水ニテホル、里千五百サトナリ  
廿一日地震酉剋ナリ  
五月  
五日佐々木宮祭礼例年ノコト久馬場ニテ  
國中揃馬アリ屋形依病氣社參十二屋形ノ  
御曹司社參  
十一日屋形ノ伯父前管領定頼上洛  
十九日江州管龍光寺今日入佛ス造事ノ奉

行高田縫殿介常久

六月  
三日妙教ノ臣御前卒ス九十八歳是ハ屋形  
ノ曾祖母ナリ東光寺ニテ御吊アリ  
十四日午剋天俄ニ曇リ雹ヲフラス草木枯  
レテ五穀實ノラス半失ス  
廿五日將軍家北野天神へ參詣近習計供奉  
ス彼宮造營ノ義ヲ仰下ス  
廿七日七月



九日雲光寺造營ノ義ヲ山中宮内少輔實成  
ニ仰付ラレ彼寺ハ屋形人父氏綱公寺十リ  
當年三十年ニ至ル甚破損依テ如此  
十五日伊豆北条家人居城小田原ト云所去  
月廿三日天火ニテ城中町ニ至テ一間モ不  
殘焼失ノヨシ今日馬淵入道カ方ヨリ觀音  
城ヘ言上ヌ馬淵ハ北条家ノ内松田某ト云  
者ノ縁者タリ仍テ如此欵

八月癸亥

十三日屋形并定頼義賢八幡ノ義昌御同船  
ニテ竹生嶋ニ渡リ玉フ十六日歸坐シ玉フ  
廿五日定頼ノ息女ヲ美濃國主土岐殿ヘ嫁  
シ玉フ女佐ノ臣ニ池田形部左衛門尉冬政  
ヲ遣ス屋形定頼ノ息女ヘ女道具不殘送リ  
玉フ

九月

十一日屋形大原中務太輔高保カ館ヘ移リ  
至フ此人ハ屋形ノ伯父ナリ繼大原家仍テ



如此三日屋形彼館ニ逗留

廿二日大津四位宮大明神ノ宮ヨリ光物出

三井寺光淨院ノ棟落テ寺門焼上ス

廿八日將軍山州梅宮ニ社參近習計供奉

十月

二日國々ノ大名上洛屋形今日上洛前將軍

義晴公依御不例御病氣十死一生ノ躰ナリ

依之伊勢へ上野因幡守頼武參宮ス

十一日相國寺ニテ大御所不例ノ義ニ依テ

大般若經今日ヨリ始ル

廿九日公方不例依本儀之儀御祝トシテ國

主ノ面々ニ能ク下松ニツイテ町三町四方

ニカコイ棧敷ヲ内ニカニヘ見世至フ將軍

父子出御京中ノ貴賤群ヲナス夥キ事近世

二十

十一月

十日山州今官造營ノ事初アリ公方内々ノ

御願アル歎又ハ近年疫病五畿内ニハヤリ



人多死依之欵先例增于宮造ノ躰殿ニ此神  
八人王六十六代一條院ノ御時京中宮内ニ  
至ルニテ疫病ハヤリ人多死ス依之疫病ヲ  
今ノ紫野ニ勧請アリトナリ疫神ユヘニ如  
此カ出陣京中ノ貴銀無クナリ練手事出陣  
十九日百濟寺ノ妙傳法印爲天狗死ス委ハ  
重テ可記由來多クアリトナリ西三田四  
長氏十二月不降本封之齋齋跡ナリテ  
朔日畠山修理大夫義忠昌虎首座ト云僧ヲ

朝鮮國へ遣サレムル今日自將軍家一通書  
ヲ下給ル持之彼僧向朝鮮  
廿三日下京大焼亡御歎堂ヨリ火出ノ

天文十寸御事



天文十七年戊辰

正月

朔日ヨリ五日ニ至テ天氣晴世靜也

十一日三上大照寺燒亡ス天火ノヨシナリ

廿日光物東ヨリ西ニ飛フ夜中如晝

二月

十日屋形志賀郡仰木ニ多田院ノ宮ヲ造營

スヘキノヨシ同郡雄琴ノ城主和田中書貞繩

二仰付ラル彼所ハ蒲仲出家シ玉ヒ蒲慶ト申

又時天台山ニ近ヨリ玉ハントテ此里ニ御所

作テ居住シ玉フ舊跡ナリ

彼所ノ舊記曰貞元二年丁丑七月十一日攝

津國自多田移江州志賀郡仰木里同年八月

十五日於橫川惠心院出家法名号蒲慶毎月

六度宛詣惠心院聞法義達天台之奥義長德

三年丁酉八月廿七日卒号多田院骨ヲ津國

置多田末略之

屋形昔ヲシノヒ殿夕造宮シ玉フ此事達皇家



同十五日勅書來ル即奉宮納コトハリ多シ  
仍略ス

三月八日武田日奉院宮納コトハリ多シ  
三日佐々木御社祭礼例年ノコトシ

十二日當將軍ノ弟南都ニ入号大乘院門主

今日入院

廿四日當將軍家ノ姉姫ヲ若州ノ武田大膳

大夫義統へ嫁シ至フ此姫君屋形ノ御前ト

ハ御同腹ナリ依之江州ヨリ若州へ移リ至フ

嫁礼ノ次第多ニ仍テ不記

十五日若州ノ武田へ將軍家賜諱字

廿七日石田寺上人尊覺化ス屋形ノ族ナリ

四月

四日上京焼町屋四十二町侍屋敷五十四間

十七日妙心寺ノ一圓和尚化屋形ノ族ナリ

廿一日自朝鮮國三日ノ馬ヲ渡ス今日將軍

家見至フ

五月本願寺開國奉入上ノ同日山代



五日佐々木御祭礼例年ノオトシ同日山州  
白川ノ里ニ兩面ノ子ヲ産ス

同日四條川原ニテ伊テ畠山ノ家人ト三好  
家人ト石打合シテ討ル者多シ京中サハク  
尤日織田上総介信長ヨリ使節アリ是父備  
後守信秀ヨリ屋形先考氏細公二代ノ間毎  
度今川家ト一戦ノ時江州ヨリ加勢ヲ送り  
玉フニ仍テ其御中和シテ當國旗頭ノ内淺  
井備前守長政ヲ信長姊ヲ以テ縁ノ組度ノ

ヨシナリ屋形ヨリ諾ノ返事アリ

六月

朔日ヨリ將軍家ノ仰トシテ日本國中ノ大  
小名御家人等先祖系圖ノ改アリ後等持院  
ノ内ニ納メ玉フ

此時又將軍家ニ不仕シテ先祖高家ノ面々  
ヲ改メラレ四十三人公方北山ノ番衆ニ加  
ヘ玉フ江州ヨリ千葉ノ刑部少輔ヲ取立出  
シ玉フ此人ノ子細日記前ニアリ



廿六日高嶋ノ扇卒ス是ハ屋形ノ乳人ナリ  
屋形甚悲三玉ヲ威徳院ニテ弔アリ  
七月十四十三人公城城址入番衆ニ  
九日屋形雲光寺ニ參玉ヲ彼寺ハ屋形ノ父  
氏綱公ノ廟寺ナリ  
十一日箕作ノ定頼依病氣屋形今日移彼館  
玉ヲ是ハ屋形ノ伯父ナリ殊屋形幼少ノ内  
ハ管領職ヲ預リ御後見ナリ依之屋形モ父  
氏綱公ノコトトク尊敬シ玉ヲ人ナレハ江州

旗頭奉貴事屋形ニ同意ナリ  
廿四日定頼ノ病氣少驗氣ニ依テ屋形今日  
本城ニ歸城ス大手ニヲイテ目安ヲ以テ向  
フ男アリ屋形馬ヲヒカヘ此書文ヲ取テ見  
ルニ新田ノ正統義重ニ廿二代ノ孫新田刑  
部少輔義幸カ一子三郎兵衛尉ト云人也國  
ヲ一族ノ爲ニ追出サレ御當家ヲ望テ如此  
ト云則代々ノ系圖ヲ指上紅涙ス屋形近年  
ノ兵乱ニ高家ノ絶ルヲ殊ニ力ナレニ三玉ハ



惠ヲ深クシテ則江州羽根田ノ庄ヲ給ル新  
田新五郎ト云人ハ是ナリ  
八月  
四日將軍家ノ御弟鹿苑寺入寺ス  
廿一日屋形并定頼ノ男義賢屋形ノ舍弟義  
昌龍光寺ニ参玉フ彼寺ノ和尚法談アリ義  
賢ト和尚ト三界論ト云事ヲ法問ス長キニ  
仍テ不知  
此寺ハ屋形ノ曾祖父高頼公ノ廟寺ナリ今

日幸忌日ナリ仍テ此義アルカ

又余九月

五日高嶋ノ新庄伊賀守卒ス三代ノ伊賀守  
依有功一城ヲ給ル武ノ器ニ當リタル者ナリ  
廿日高山五郎兵衛尉カ家人ト種村大藏カ  
家人ト觀音城西ノ下馬ニツイテ喧嘩ス死  
人雙方四十一人也種村ト高山ト既ニ又一  
戰ニ及ントス屋形聞召雙方共ニナタメラレ  
居城ヲカヘラル高山ヲハ志賀郡仰木城ヘ



種村ヲハ甲賀ノ城ヘカヘラフル

十月

九日内々ノ義アツテ屋形ノ二男龍水丸殿  
ヲ若州ノ武田義統ヘ爲養子今日江東ヲ動  
坐シ若州ニ移リ王ヲ馬杖權守實宗黒田十  
内左衛門尉重國兩人ヲ付ケ王ヲ

廿三日霰フル卯剋ヨリ至酉剋ツモル事一

尺余如雪近年江州ニテハナキ事也寒事甚シ

日幸十一月

九日京極兼觀ノ女ヲ尾州奥田ノ城主織田  
左馬助敏宗カ方ヘ嫁ス是ハ織田ノ備後守  
信秀ノ伯父ナリ  
廿日細川修理大夫晴元江東ニ來ル觀音城  
ニ入多賀ニ參ル屋形能登栗毛ト云名馬ヲ  
送ル

十二月

四日京極ノ三男乙法師丸卒ス九歳屋形ノ  
養子ニテ甚アワレ三王ヲ



十九日大風江州山々ノ大木多ク倒ル長光

寺ノ本堂破倒スハカク江志剛武卒ノ火焔至ル

九月十二日ハカク長光ノ火焔至ル

張以ハカク武焔至ル

江源武鑑卷第四上終江源武鑑卷第四上

武焔至ル

武焔至ル

武焔至ル

武焔至ル





